

學 藝 新 聞

第21号 2022年(令和4年)12月24日発行

発行元

■ 文化祭	1・2
■ 附属中 宿泊研修	3
■ 輝く人(卒業生・在校生紹介)	4・5
■ 学芸ニュース(国際科)	6
■ 学芸ニュース(運動部・地域活動)	7
■ 学芸スポーツ	8

学校法人 大阪学芸
 大阪学芸高等学校
 大阪学芸高等学校附属中学校
 〒558-0003 大阪市住吉区长居1丁目4番15号
 TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173

この2年間、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの学校行事を行うことができず、生徒たちが楽しみにしているビッグイベントのひとつである文化祭も、中止の憂き目を見てきました。昨年度も学年別で実施する案や外部施設で行う案など、なんとか実施できないかと様々な方法を模索しましたが、結局断念せざるを得ませんでした。今年度は、生徒だけの参加で保護者の方々や外部のお客様をお招きすることはできないながらも、ようやく本来に近い形での実施にこぎつけることができました。

感染の脅威が依然続く中での大きなイベント。実施できることは決まったものの、途中で感染者が増加すれば即中止となってしまいます。学校としての感染対策を徹底するのは勿論のこと、生徒一人一人の感染予防への意識向上が大変重要となりました。教室に残って準備をする際には担任や教員が立ち会い、マスクの徹底やこまめな手指消毒を促すなど、準備期間中も気を引き締めて進めました。



主 月 春 日 再 来

雲外蒼天
 金碧相暉



※21号に掲載されている写真のうち、マスクを外しているものは撮影時のみの姿です。

高等学校・附属中学

テーマは「青春再来」
3年ぶりの開催!

in2022

待ちに待った文化祭

競技かるた




文化祭の準備段階から当日の運営、片付けまで尽力した生徒自治会を代表して、2021年12月～2022年11月の期間に会長を務めた恵本茉奈さんがコメントを寄せてくれました。

9月10日(土)に、高等学校では119回目、附属中学校では7回目となる大阪学芸高等学校・附属中学校文化祭を開催することができました。新型コロナウイルス感染症による影響で、全校生徒が一斉に文化祭を行うことができておらず、ここ2年は希望のクラブ・クラスが展示物や映像を作成し、本館玄関前に展示するなどの取り組みのみで行われていました。3年ぶりの開催となった今回の文化祭では、コロナ禍において失われた学校生活の思い出を取り戻そうという思いを込めた「青春再来」というテーマを掲げました。しかし、今年も感染拡大が懸念されるため、食品を取り扱う模擬店は行うことが難しいと判断し、飲食を伴わない午前中のみでの開催となりました。また、例年は保護者、地域の方々を招待して行っていたが、本校生徒のみで行い、併せて新しい試みとして、大阪学芸中等教育学校と合同での開催となりました。

高等学校では、3年生が、グラウンドや本館の各教室を使ってのストラックアウトや脱出ゲーム・ボーリングなどの非食品模擬店、1・2年生が各館の教室を使ってクラスで作成した展示・映像や本館体育館・南館体育館での舞台公演を行いました。附属中学校では、3学年とも展示・映像の取り組みを行いました。クラブ・同好会は、部活動の取り組みを披露する場として、作品を展示したり、舞台公演を行ったりしました。

当日の文化祭に向けて、新年度当初より少しずつ計画を進め、前々日6限目ホームルームから最終仕上げに向けて大々的に準備を行いました。展示クラスは作品の仕上げや教室内の飾り付け、舞台公演クラス・クラブは体育館の舞台の設置でブルーシートを敷いたり椅子を並べたり、と協力して作業を行いました。音響業者との連携がうまく取れておらず、音響・照明などを前々日に準備することができないトラブルが発生しましたが、文化祭前日の舞台公演リハーサルでは、吹奏楽部の協力のもと音響を入れていただき、無事にリハーサルを終えることができました。展示・映像や模擬店のクラスは最後の仕上げを行い、文化祭本番を迎える準備が整いました。

文化祭当日、展示・映像部門は、中学生、高校1・2年生を中心に行いました。各クラス1教室を割り当て、その教室にひとが入ってきたくなくなるよう

な装飾や工夫を施していました。附属中学1年2組の取り組みであるペーパーフラワーアートは、お花紙を使って花を作成し、本校の校章や世界地図を再現しました。両作品とも本館正面玄関付近で展示しましたが、中でも大阪学芸の校章はとて人気で、文化祭当日は沢山の生徒が写真に収めている様子が伺えました。映像部門では、1年C組がMrs.GREEN APPLEの「青と夏」を題材に校舎全体を使い映像を制作しました。青春をテーマに、生徒や教員が試行錯誤を重ね、さまざまな表現を取り入れて動画を作成し、当日、教室のビックパッドを用いて、上映を行いました。優秀作品に選ばれた1年13組による「美女と野獣」では、教室全体を用いて、映像やプロジェクションなどで「美女と野獣」の世界観を演出しました。どの作品においても、各クラスメンバーの協力が光る傑作揃いでした。

舞台公演は、高校1・2年生、クラブを中心に行いました。今年はコロナ禍での開催ということで、各会場、チケット制・入れ替え制を取り入れ、本館体育館300席、南館体育館200席、ホール100席限定の人数制限を取り入れました。チケットは、各クラス・クラブで発表のテーマに沿ったデザインでの準備をしてもらい、その後、自治会印を押した上で、休み時間などを用いて、文化祭前日までに事前配布を行いました。自治会で確保していたチケットも、文化祭当日に各会場にて配布を行いました。当日は、ミュージカル、劇、ダンスと幅広いジャンルの公演となりました。各クラスとも、舞台に合わせて準備した衣装、背景、大道具、小道具を用いて、観客の前で素晴らしい発表を行いました。後日行ったアンケート調査によって、2年2組が披露した「おおうらといっしょ2ねん2くみダンスコンサート」が優秀賞を勝ち取りました。他にも、1年5組の舞台では、客席も含めた会場全てを用いて、「～令和4年版～アナと雪の女王」をミュージカル風に披露しました。部活動の発表では、出場各々が、日頃の練習の成果を存分に発揮しました。吹奏楽部の皆さんによるパフォーマンスでは、会場にいる生徒、先生方が手拍子で盛り上げ、演奏者と観客が一体となって体育館に素晴らしい音色を響かせました。

今年度は、高等学校と中等教育学校合同での初の文化祭ということで、合同企画「学芸王」を自治会・生徒会中心に開催しました。事前に参加者を募り、その後、厳正な審査のもと選ばれた10名の生徒が「学芸王」の出場者となりました。本番では、自治会・生徒会役員で、司会、音響、審査員を務め、「学芸王」決定戦を行いました。出場者は画力・体力・知力の3つの分野で競い、総合



得点で順位を決定しました。出場生徒は、舞台上で特技を披露したり、トークで場を盛り上げたりと、ステージ上で活躍しました。

模擬店は、高校3年生を中心に取り組みました。2クラスはグラウンドで、その他の16クラスは1クラス1教室を使用して模擬店を開きました。当日、天候にも恵まれ、グラウンドの模擬店では、サッカーゴールを活用したストラックアウトなどを行いました。今回は、グラウンドでの開催が2クラスのみとなったため、両クラスとも、グラウンドの広い空間を最大限に活用して、運営をしました。各教室でおこなわれた模擬店では、トランプを使用したカードゲームやダーツ・ビリヤードなど対戦形式のもの、写真ブースを設けたもの、手作り作品を販売するものと、バラエティー豊かな店が並びました。担任の先生の等身大パネルを準備してそれと一緒に写真を撮るなど、どのクラスもお客さんを楽しませる工夫が沢山詰まっています。ゲームを行ったクラスでは、沢山の景品も用意されており、アニメのフィギュアや、漫画、アクセサリーなど、誰もが楽しめる景品がずらりと並べられていました。どのクラスも、準備時間を最大限使って教室の飾り付けに取り組んでおり、当日の文化祭では、個性豊かな雰囲気を生み出し、お客さんを楽しませていました。

自治会役員は、文化祭前日までの休み時間と放課後を活用し、パンフレットの準備、金券の作成、チケットの押印をおこないました。また、各クラスの宣伝ポスターを本館正面玄関ホールに掲示しました。前日には、展示で使われるパネルの搬入、模擬店のクラスの最終確認の任務を担いました。当日は、会場ごとに自治会役員を配置し、舞台を見に来た生徒のチケットの確認や会場の入れ替えを、担当の先生方と協力して行いました。文化祭終了後は、ゴミの回収や、各舞台の撤収、学校内の見回り、パネル返却の手伝いを行いました。半日のみという限られた時間での文化祭開催でしたが、先生方のサポートも受けながら、自治会役員全員で協力をし、無事に乗り切ることができました。

高校3年生にとっては最初で最後の文化祭となりましたが、2022年度文化祭を大過なく成功させることができました。



附属中学校

ようやく実施!! 宿泊行事

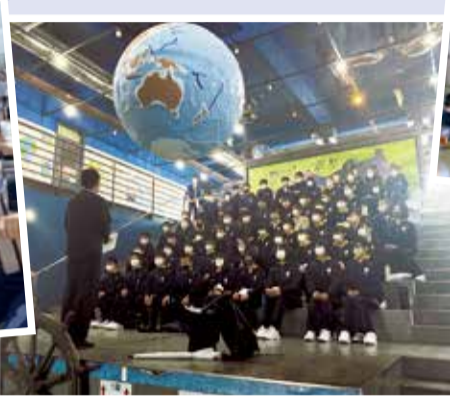
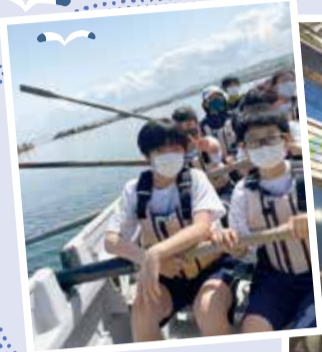


コロナ禍により実施できていなかった宿泊行事について、中学1年生と2年生は3年ぶりに行うことができました。また、昨年度中学3年生が2021年12月に実施した沖縄修学旅行について、今年度中学3年生も行うことができました。

中学1年生

大阪府立青少年海洋センターへ!!

4月21日(木)～
22日(金)



学芸新聞20号にも掲載したとおり、4月21日（木）～22日（金）の日程で、淡輪にある大阪府立青少年海洋センターに行ってきました。初日はあいにくの大雨となってしまい、海のパログラムであるカッターボートには乗れませんでした。体育館で集団行動の基礎を学び、仲間づくりも行いました。2日目は前日と違って変わっての青空となり、カッターボートを全員で漕ぐことができました。慣れないオールさばきに最初はおっかなびっくりでしたが、時間が経つごとに動かし方にも慣れ、最後にはグループ同士でレースを行うほどに上手になっていました。

中学2年生

中学生生活初の宿泊で緊張と興奮!!

7月11日(月)～
12日(火)

7月11日（月）～12日（火）の日程で、大阪南港コスモスクエアにあるホテルフクラシア大阪ベイに行ってきました。2年生にとっては中学生生活で初めての宿泊行事ということもあり、嬉しさから、生徒達は少し興奮している様子が見て取れました。この合宿で3年生の修学旅行にむけてホテルマナーを学ぶとともに、講義420分（70分×6）と自習420分という、中学2年生にとっては勉強漬けともいえる環境の中で、自らを見つめるという課題に取り組みました。途中で辛そうな顔をする生徒も見かけましたが、合宿の終わりの挨拶をするころには、多くの生徒が清々しい顔をしていました。



中学3年生

沖縄で貴重な体験

10月21日(金)～
24日(月)

10月21日（金）～24日（月）の3泊4日で八重山諸島・沖縄本島へ修学旅行に行きました。1日目は石垣やいま村で赤瓦の古民家を見学したり、リスザル園の人懐こいリスザルたちと触れ合ったりしました。夕方に訪れたユグレナモールでは沖縄の名産やお菓子などのお土産を選んでいました。2日目は竹富島でレンタル自転車でのサイクリングをしました。地図を片手に浜辺に向かい、美しい海を背景に写真撮影、午後からは西表島でカヌー班とトレッキング&クルーズ班に分かれてアクティビティーに参加しました。3日目はバナナ公園の展望台から石垣島の景色を満喫しました。そのあと、川平湾でグラスボートに乗り、鮮やかな色とりどりの魚たちや珊瑚に歓声をあげていました。午後からは那覇に向かい、首里城公園の見学や、日没後のトロピカルビーチ散策をしました。4日目は美ら海水族館で、大きな水槽に悠々と泳ぐジンベエザメの迫力に圧倒されていました。古宇利島のオーシャンタワーでは見渡す限りの青空と青い海の絶景に感動していました。

楽しい思い出と貴重な体験ができた4日間でした。



卒業生の活躍



多業種にわたり会社を経営!!

一森さんは大阪学芸高等学校の前身である成器高校を卒業後、様々な業種の会社を立ち上げ、成功を収めておられます。ご多忙の日々を送る一森さんですが、今回お時間を取ってくださり、後輩へのメッセージを込めたお話をいただきました。



いち もり さとり
一森 智さん

▶ 現在なさっているお仕事についてお伺いします

多業種にわたり会社の経営をしております。具体的に挙げると、不動産業、建設業、建築設計事務所、飲食業、整骨院、美容サロンです。また、2023年には老人ホームを開業する準備を進めています。よくいただく質問として、「本業はなんですか?」と聞かれます。国家資格を要する業種を経営しているのですが、私自身、資格は保有しておりません。私一人では会社設立も経営もできませんので、仲間と会社法人にして業種毎に独立経営しております。私の役割は会社ごとに多少違いますが、大まかに言えば社長業です。

▶ どのような高校生活を送っておられましたか

普通科スポーツコースに在籍していました。現在の「特技コース」に近いコースです。私は空手道部に所属していました。3年間を通して稽古や試合も多く、夏休みや休日に練習や試合で出ていた日数も入れると、教室に居るより部活関係の場所に居る時間が長かったように記憶しています。平成も最初の頃であり、雰囲気やメンバーの気質など、現在とは違った部活や学校生活だったかも知れません。ただ残念ながら全体としてあまり真面目でない高校生活を送ってしまいました。卒業できたのは部活顧問や仲間の支えがあったからだ、と今でも感謝しております。卒業していなければ今の仕事はできていないと本当に思います。

▶ 現在のお仕事を目指したきっかけはなんですか

経歴の通り、約18年間ハウスメーカーに勤務しました。営業マン3年、プレイングマネージャー(現場の業務をこなしながら部下をまとめるマネージャーの仕事をする役職)11年、管理職4年でした。入社2年間はいまひとつだったのですが、3年目以降はかなり優秀な成績を収めていました。転職は、恩師や友達がマイホームで困っていた時に自分を頼りにしてくれた時でした。営業職であったので業績トップになりたい思いはありましたが、恩師や友達を前にした時に、自分を頼りにしてくれたことに対する喜びと責任感が芽生え、成績は後回しにして必死に行動したのを覚えています。現在の多業種にわたる働き方を目指したきっかけは、42歳までの経験と人脈で、他業種でも自分の役割があるのではないかと考えたことにあります。

▶ 現在のお仕事に関わるために努力なさったこと・苦労なさったことを教えてください

起業した時、建築業、不動産業については自分として経験豊富な分野だったので、新入社員の気持ちに戻りガムシャラに動きました。しかし、そこから知らない業界での仕事はまず勉強からのスタートでした。しっかり勉強すればの話ですが、1、2か月あればどの業界でも一般人よりは詳しくなれます。しかし、さらに詳しくなろうとした場合、教科書があるわけではないので教材や情報を探すのに苦労しています。

私がいつも心掛けているのは次のようなことです。肩書きに関わらず、スタートは社長でも社員でもありません。その業界では研修生からのスタートです。常に初心に帰る心構えを大事に、日々勉強しています。

▶ 現在のお仕事に関わるために必要な知識・技能・資格は何ですか

資格は業種により異なりますが、経営に必要な知識や経験は大まかに4つぐらいかと思います。つまり、①営業集客マーケティング力、②技術技能能力、③経理会計能力、④人材教育力です。国家資格保有者が一人で会社設立できたとしても、会社を経営しお客様に継続して満足していただくには一人では難しく、多くの人と助け合い、チームを組んでサービスを提供しなければなりません。よって、多くの人の多様な意見を聞ける素直さと謙虚さ、良い人間関係を築けるコミュニケーション力もスキルとして必要だと思います。

▶ 多角経営の魅力・やりがい・苦労について教えてください

やはり、仲間の増えることが魅力です。しかし仲間が増えると苦労するのは人間関係です。

私のグループでは、16歳アルバイトから65歳役員までが一緒に働いています。育ってきた時代も文化も別世界です。従って、自分の経験から培った価値観やルールを大切にしながらも、一方的に押し付けるのではなく、常に相手の価値観を理解した上で話し合うことが大事だと思います。



同じ仕事を提供している多くの業者の中より当社を選んでくださったお客様からのご指名をいただき、対価を頂戴します。お客様が自分と出会ったことを喜んでくださるような仕事ができればやりがいになり、また生きがいにもなります。喜ばれることを行っていくために苦労することが、やりがいに繋がると考えています。

▶ 将来の目標・夢は何ですか

45歳で心筋梗塞を患い、緊急処置にて一命をとりとめました。現在は管理しながらですが、健康を取り戻しています。具体的に数値や文字にしている夢



経歴

1994年 3月	成器高校 卒業
1994年 4月	株式会社糸蔵 入社
2001年 4月	トヨタホーム近畿株式会社 入社
2018年 2月	イロタス建築工房株式会社 代表取締役就任 (不動産業、建設業)
2019年 1月	イロタス株式会社設計事務所 COO 就任 (建築士事務所)
2019年 7月	株式会社さとり 代表取締役就任
2019年12月	焼肉しょう 堺市堺区 出店
2021年11月	熟成焼肉はじめ 堺市中区 出店
2022年11月	熟成焼肉あらた 堺市堺区 出店
2020年12月	イロタスポディケア株式会社 代表取締役就任 (イロタス整骨院、ジム運営)
2022年 8月	ハイランド株式会社 COO 就任 (トータル美容サロン)



もありますが、まだ起業して5年足らずの身です。背伸びせず、楽しく仲間と仕事を継続できる会社をつくるのが目標です。

▶ 在校生へのメッセージをお願いします

皆さんの約30年先輩です。先に30年を過ごし、私の同世代や下世代と一緒に働き遊んで生活をし、数え切れないほど多くの人々と出会ってきました。今の行動で1年後が決まり、1年後の行動で3年後、3年後の行動で5年後が決まります。10年後、15年後も同じ流れが進みます。歳をとるごとに変化や成長は期待できにくくなります。また、歳を取ってから気付いても遅いことばかりです。気付いたその日、その時に行動を起こしてください。

チャンスや転機はいつでも誰にでも目の前にあります。しかし、きっかけは他人からいただけたりしますが、変えるのは自分しかありません。

苦勞すれば必ず先に楽しさがあります。勉強にも、部活動にも、友人や家族と何かをしたりどこかに行ったりすることにも、今できることに精一杯誠実に取り組み、苦勞を楽しみに変えてみてください。





夢、叶う!!プロ棋士として 活躍に期待!!

今後の期待がかかる藤本さん。将棋を始めたきっかけや勝歴、またくやしさを経験をバネにした抱負などを語っていただきました。

奨励会・第71回三段リーグにおいて13勝5敗・1位で四段昇進

高校2年 **藤本 渚**さん



▶ 将棋と出会ったきっかけ、およびプロを目指す決意したきっかけを教えてください

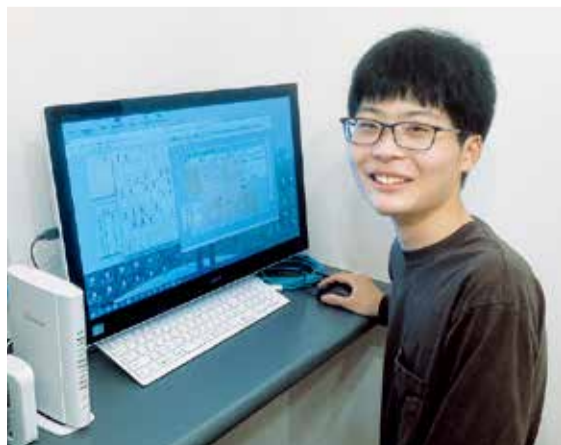
6歳の誕生日に両親に教えてもらって、まず将棋というものの存在を知りました。オセロも教えてもらったのですが、将棋のほうがより複雑でより面白いと思い、専ら将棋をやるようになっていきました。覚えてすぐの頃、保育園の友達とオセロ盤を将棋盤の代わりにして将棋をやっていたことを覚えています。また、夜寝るときに布団の中で将棋の本を読んでいたせいで目が悪くなりました。僕が今メガネをかけている理由はそれです。

覚えて数か月したころから将棋道場に通り始めて、小学1年生の終わりごろに道場でアマ三段認定を受けました。小学3年生の4月に県大会で優勝し、全国大会への出場が決まりました。当時8歳での全国大会出場はおそらく現在でも最年少記録で、自分のささやかな自慢です。それから前述の井上慶太九段の弟子として、プロ棋士養成機関である奨励会に入会する5年生まで色々な大会に出て、県タイトル

などを取ることができました。実は奨励会に関しては4年生の時にも受けており、3連敗で落ちています。このときに、自分には将棋しかないんだと強く思い、プロになりたいという意識をはっきり持ったと記憶しています。ちなみに、奨励会に入会すると、アマチュア大会への出場ができなくなるので、奨励会に合格した時持っていた県タイトル3つは返上することになりました。奨励会は6級からスタートして四段からプロになります。自分は2級に1年弱、初段に2年掛かって、合計6年で奨励会を抜けてプロ棋士になれました。

▶ 将棋を続けていく中で得たものは何ですか

上手いかない時に工夫すること、努力を続けることの大切さを知ることができました。ダメだったらそこで終わるのではなく、なぜダメ



なのかを追究して理解し、そこを克服できるように試行錯誤をしていく心構えを将棋から得ることができたと思います。また、マナーも身に付けることができました。将棋はマナーを重んじ、礼に始まり礼に終わると言われる競技なので、マナーに関して多くのことを学びました。

▶ 学業との両立はどのようにしていますか

テストの時を除いて、普段学校から帰って以降のほぼ全ての時間を将棋に費やしています。なので学業については授業内でなるべく理解できるように頑張っています。学校の勉強が将棋の邪魔になることはあまりありません。テスト期間に将棋ができなかっただけで弱くなるようでは、日々の積み重ねが足りないのだと思っています。だからこそ普段から家にいる時間を将棋に使って後悔のないように過ごすことを心がけています。

▶ 将棋を続けてよかったと思うことは何ですか

プロになれたことによって、小さい頃からずっと目指してきた夢が叶ったこと、今まで自分を応援してくださってきた方々に良い報告ができたことが、今まで将棋を続けて良かったと思うことです。多くの期待がプレッシャーになった時期もありましたが、それを力にしていけるように、これからも将棋を続けて良かったと言えるように頑張っていきたいと決意しています。

▶ 今後の抱負

自分でも分かるくらい、今より強くなることです。プロ棋士にはなりましたが、まだまだ自分は未熟だと感じています。なので、若いことを活かし、より強い棋士へと成長し続け、実績も残していこうと思います。

▶ 今回挑戦した三段リーグについての感想を教えてください

開始前は昇段圏内ではなかったので、気楽にこう想着て、リラックスしていました。ただ、全力を出し切ろうと決意していました。

対局中は盤面だけを見て集中することを心掛けました。1局目が終わった後も取って結果を確認せず、目の前の対局に集中し、1勝を得ようといった思いで臨みました。

結果を知ってまずはびっくりでした。自分にはまだ早いのではないかとさえ感じました。時間が経つにつれ、師匠、家族、地元で応援してくれている方々に良い報告ができるとか、嬉しいとか、いろいろな感情が湧き出てきました。

▶ 師匠について教えてください

僕の師匠は井上慶太九段です。自分が将棋を覚えて2、3年したころ、井上先生が開いている将棋道場に行ったことが縁で弟子にさせていただきました。井上先生の弟子同士で行われる研究会へ参加させていただいたり、奨励会で中々上がれず苦しんでいた時に棋譜を見ていただいたりなど、とてもお世話になっています。技術的な面もそうですが、特に精神面でのアドバイスが自分にとって支えになっています。師匠からいただいた「三年後の稽古」（すぐには報われなくても、自分の力になっているから、焦らず努力を続けるということ）という言葉が部屋の壁に貼っています。

学芸ニュース

国際科2年生、1年間の留学!!



1年留学コースの2年B組は、19名全員が今年の1月よりカナダ・オタワに留学中です。

1月のカナダ到着後、オリエンテーションを受け、2月から6月まで現地オタワの公立高校に通学しました。1月のオリエンテーションはコロナ禍の影響でオンラインでの開催でしたが、現地の高校に通うための準備をし、2月から学校に通って新しい学校生活の中、学びを深めていきました。初めはなかなか自身の思いを伝えられず、戸惑ったり、もどかしかったりした事もあったようですが、ホストファミリーの生活にも徐々に慣れていくことができました。

夏休みにはサマープログラムを受講し、午前中は英語の授業を受け、午後からはダンスレッスンやボクシング、ゴルフにチャレンジし、また体育館でのレクリエーションに参加しました。オタワは文化施設も多く、博物館や美術館にも足を運びました。カナダは冬になるとマイナス30度を下回ることもあるほど極寒ですが、春・夏は温暖な気候でとても過ごしやすく、お祭りなどのアウトドアイベントやスポーツが盛んに行われます。緑豊かな公園でピクニックをしたり、ミュージックフェスティバルに参加したりして、それぞれが春夏のカナダを楽しんでいました。

9月からは、再び現地高校に通学しながら、日々様々なことにチャレンジし続けています。

カナダでは、ESL (英語の授業)に加えて、自身の興味関心に合わせ

て授業を選択することができるため、生徒達はビジネス・人類学・地理学・歴史学・演劇など、幅広い分野の授業を現地の高校生と一緒に受け、学んでいます。

ここで、生徒達の声をいくつか紹介します。

「留学に来てから1日1日が貴重な経験だと感じるし、毎日が新しいことへの挑戦でとても楽しく感じます。」

「初めは、言語の壁・文化の違い・価値観の違いなど色々な問題があり、辛い日々でした。しかし、毎日をご過ごしていくうちに、『人はそれぞれ違う生き方をしているんだ』と捉えられるようになり、『自分の好きな生き方をすればいいんだ』と思えるようになりました。このように考えるようになってから精神的に楽になり、前よりも強くなれたと思っています。」

「自分の家族と離れ、知らない人の家で生活するというのは緊張しますが、とても良い経験になると思います。知らない土地の知らない人たちと暮らすのは人生でほとんど経験できないことです。そして日本から離れて暮らすことで日常の大切さや親への感謝なども改めて感じました。」

また、留学生活を通して「一歩踏み出す勇気の大切さを実感した」、「自分に自信がついた」という声も多く聞きます。

「学校生活では、初めはどうしても自分から話しかけることが出来なくて、悔しい気持ちでいっぱいになる

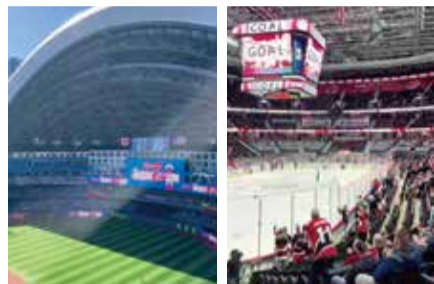


毎日を過ごしていました。私はこのままの自分ではだめだと思いました。ある時私は、どう転んでも大丈夫だから勇気を出して一歩踏み出そうと決心しました。そう考えるようになってから、自分からクラスメイトに話しかけてみたり、授業で進んで自分の意見を発表したり、以前の私では出来なかったことが少しずつできるようになりました。」

「英語での会話は、語順が完璧でなくても伝えようとするのを心がけました。伝えようとするだけで相手は言いたいことを理解しようと努めてくれます。それで通じた時はとても嬉しく感じました。」

「辛いことももちろんありましたが、自分から友達に勇気を出して話しかけることができたし、全部乗り越えてきたのだから自分ならできると自信ができました。」

留学中の生徒は皆よく頑張ってくれており、実に嬉しく思います。この努力を続け、それぞれが残りわずかの留学生活を実りあるものすることを願っています。来年1月の帰国時に成長した生徒達に会うのがとても楽しみです。



ダブルディプロマコース短期留学



7月8日(金)から8月15日(月)までの5週間、ダブルディプロマコース在籍の1年生・2年生がカナダ・ブリティッシュコロンビア州スーク地区において短期留学を行いました。

期間中、生徒達はホームステイをしながらベルモント校に通いました。午前中は Social Studies 10 の授業を受け、午後は大学ツアー、博物館訪問、ボウリングやクッキング教室など、様々なアクティビティに参加しました。

生徒たちはベルモント校に在籍するインターナショナルの生徒と一緒に授業を受け、共同で課題に取り組んだり意見交換をしたりしながら、交流を深めました。

週末はホストファミリーと過ごす時間が中心となり、山や湖で大自然に触れたりホームパーティをしたり、それぞれの家庭と共に過ごす休日を楽しみました。また、ホエールウォッチングツアーや北米有数の世界都市であるバンクーバーへの日帰りツ

アーなど、貴重な経験をする機会も得ることができました。

短い期間ではありましたが、生徒たちは非常に充実した時間を過ごすことができたようで、帰国に際しては現地で仲良くなった友人やホストファミリーとの別れを惜しんで涙を流す姿も見られました。

YouTube 大阪学芸高等学校 OFFICIAL チャンネルにて生徒へのインタビュー動画も掲載しています。ぜひご覧ください。



NPO法人大阪ユネスコ協会賞受賞!



1年生 田中愛さん

国際科1年生の田中愛さんが、2022年9月18日(日)に行われたNPO法人大阪ユネスコ協会主催「第69回国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール」大阪府大会に出場し、NPO法人大阪ユネスコ協会賞を受賞しました。

SDGsや国際情勢における課題について他校の高校生が発表する中、田中さんは「銃社会における問題点」を取り上げました。銃による襲撃事件を起こす人たちの背景に着目し、

「その人たちの根本に潜む社会問題を解決しなければ銃問題は解決しない。世界中のあらゆる人の考えや意見を発信する場を国連がもっと設けるべきだ」と訴えました。そして「一人一人が特有の色いゆる意見を持ち、その色が平等に輝いて認められる世界こそが世界の目指す頂点である」と主張しました。一人一人に届けようとする熱のこもった声が会場に響き、6分間のスピーチの後、会場に拍手が沸き起こりました。

受賞後、田中さんにインタビュー

●コンクールに参加してどうでしたか?

「このような場でスピーチをすること自体が初めての経験だったので、最初は不安もありました。しかし、コンクールに向けて練習を重ね、このような賞も受賞することができました。挑戦して本当に良かったです!」

●スピーチの際、意識したことはありましたか?

「あまり緊張するとうまくいかなかったと思ったので、落ち着いてスピーチするように心がけました。会場にいる人の目を交互に見て、訴えかけるように意識しました。

途中で、審査員の方と目が合い、気持ちが少し楽になりました。」

●今後の目標について教えてください。

「人前で話すということについては、一歩前に進むことができたと思うので、今後は1年留学にいき、そこでも自分の意見をしっかりと発信できるように頑張ります!」





※部活動及び地域活動における大阪府立生徒の活躍からピックアップしてお伝えします。(敬称略)

高等学校空手道部

第12回 世界ジュニア・カデット&アンダー-21 空手道選手権大会(10/26~30 トルコ・コンヤ)

- ジュニア 男子団体形 優勝:[2年]松村颯天、若林寛斗、岡本朱良
- ジュニア 女子個人形 優勝:[2年]古河蒼波



いちご一会 とちぎ国体 第77回国民体育大会 空手道競技(10/2~4 栃木県)

- 少年女子形 優勝:[2年]古瀬智菜
- 少年男子形 第5位:[2年]若林寛斗



令和4年度 第76回 大阪高等学校 総合体育大会 空手道競技(8/26 東大阪アリーナ)



- 女子団体組手 優勝:[2年]上田美優、田中菜の羽 [1年]生原真琴、村山鈴音、葛原麻莉、梅崎七瑠、竹綱万葉、長嶋真央
- 女子団体形 優勝:[2年]古瀬智菜、高嶋弥世、松宮千夏海
- 学校対抗女子 優勝
- 男子団体組手 第3位:[2年]竹内廉人、松下煌汰、橘高伶王、吉福大輝、麦谷悠成 [1年]宮下遼太郎、白井大誠、植原蓮翔
- 男子団体形 準優勝:[2年]若林寛斗、岡本朱良、松村颯天
- 学校対抗男子 準優勝

附属中学校空手道部

第30回全国中学生空手道選手権大会(8/26~28 鹿児島県・薩摩川内市総合運動公園体育館)

- 男子団体形 優勝:[3年]田井滉泰、奥村宗司、麦谷亮英 [1年]桑波田世那、関山陽人
- 男子個人形 優勝:[3年]田井滉泰 第3位:[3年]奥村宗司、麦谷亮英
- 女子団体形 第3位:[3年]連瑠衣子、森絢愛、溝端彩恵 [2年]松田葉奈 [1年]奥村和叶
- 女子個人形 準優勝:[3年]森絢愛
- 男子団体組手 第5位:[3年]吉福啓、堀内寿眞、丸水大将 [2年]播本奏人 [1年]安達大翔

第56回大阪府空手道選手権大会(9/19 エディオンアリーナ大阪)

- 中学女子1年形 優勝:[1年]奥村和叶
- 中学女子1年組手 第3位:[1年]宮下菜穂
- 中学男子1年形 第3位:[1年]桑波田世那 中学男子1年組手 第4位:[1年]安達大翔
- 中学男子2年組手 第3位:[2年]徳守海瑠
- 中学女子2年組手 第4位:[2年]松下真心
- 中学男子3年形 準優勝:[3年]奥村宗司 第3位:[3年]田井滉泰 第4位:[3年]竹村至右
- 中学女子3年形 準優勝:[3年]森絢愛



高等学校女子サッカー部

第77回大阪高校総合体育大会(10/16 Jグリーン堺)

- 準優勝 この結果、第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 関西大会に出場。この関西大会で、1回戦に勝利し、全国大会への出場権を獲得。



第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 関西大会 決勝(11/12)優勝

高等学校女子バレーボール部

大阪府私立高校バレーボール大会(9/11)にて上位進出を果たしました。この結果、12月に行われる「近畿私学大会」に大阪府代表として出場することが決まりました。また、10月に行われた「春の高校バレー大阪府予選」において、ベスト8進出を果たしました。

高等学校陸上競技部

2022年度 全国高等学校駅伝競走大会 大阪予選会 女子の部(11/5 長居公園周回コース)

- 総合第6位入賞 記録:1時間16分47秒 [3年]清水つばさ、福田心華、福田美華 [2年]東照寺綾海 [1年]小西優菜
- この結果、11月27日に南あわじ市特設コースで行われる女子第38回近畿高校駅伝競走大会に出場することが決まりました。

2022年度 全国高等学校駅伝競走大会 大阪予選会 男子の部(11/5 長居公園周回コース)

- 第7位入賞 記録:2時間16分20秒 [3年]石橋恵多 [2年]黒木翔吾、古田一吹 [1年]上田悠輔、黒木賢心、米田樹生、橋本隆児



地域活動

女子サッカー

FIFA アンダー・セブンティーン女子 ワールドカップ インド2022(10/11~30 インド)

本校から[2年]楠さやみ、白垣うの、中谷莉奈、丸井優奈の4名が、日本代表として派遣されました。予選リーグは、タンザニアに4-0、カナダに4-0、フランスに2-0で勝ち、1位通過で決勝トーナメント進出となりました。準々決勝では、スペインに1-2で逆転負けを喫し、残念ながらベスト8で終わりました。しかし、中谷選手がキャプテンを務め、白垣選手が2得点をあげるなど、活躍しました。

バトントワーリング

第35回 世界バトントワーリング選手権大会 フリースタイル個人 ユース女子

- 第3位:[2年]精松 伶菜



レーシングカート

2022年 全日本カート選手権 西地域 第4戦 FS125部門

- 第3位:[1年]福岡 主税





日本の文化を理解することで海外を知る

ESS部 国際的活動



1学期は、日本文化に関する動画作成をしました。中学生は風鈴やうちわなど日本特有の夏

今年度の大阪学芸ESS部(English Speaking Society)は、「日本の文化を理解することで海外を知る」というテーマをもとに、様々な活動を行ってきました。真に国際的であるためには、まず自国の文化について理解することが重要だからです。ESS部では英語を話し、楽しむことももちろん重要ですが、日本や海外において実際に英語を使用する場で、日本、そして日本の豊かな文化に関して英語で説明できることが異文化コミュニケーションにおいて必要不可欠と考えています。現在、週2回の活動をしているESS部ですが、実際に集まる活動日以外でもリサーチをしたり、英文や発音練習をしたりなど、自ら進んで英語を使いながら作業を進めています。最初は少し恥ずかしがっていた新入部員たちも、今では進んで意見を言うようになり、ミスを恐れなくなりました。

Learning About Foreign Countries by Understanding Japanese Culture

This year, the ESS Club has carried out various activities on the theme of "learning about other cultures by understanding Japanese culture". Speaking and having fun in English is core to ESS but being able to talk about Japan in English is essential for cross-cultural communication. Besides meeting twice a week, we also do research, write essays, practice pronunciation, and freely communicate in English.

In the first term, we made videos about Japanese culture in English. Topics included the history of kendo, Japanese ways of cooling down, and unique Japanese games. After proofreading and pronunciation practice, Japanese subtitles were added and displayed to all at the entrance of the school. At the school festival, we conducted research on regions of Japan, created posters in English, and exhibited them with interactive quizzes.

In the second term, we had an online exchange with Yeosu Samil Junior High School in South Korea. Both schools compiled questions to ask each other in advance and prepared answers with slides. We discussed a plethora of topics, from Japanese anime to economic trends. To close, we had a free exchange about each other's school rules; it was very exciting.

2学期は、韓国の全羅南道ヨササミル中学校とオンライン交流を行いました。日本から最も近い国である韓国では、日本への興味から第2外国語として日本語を学ぶ生徒も多くいるとのこと。事前にお互いの聞きたい質問をまとめ、スライド付きで答えを用意しました。ヨササミル中学生からの質問は、日本のアニメ、コンビニ弁当の種類や部活動についてなどサブカルチャーから、自衛隊や経済の



の風物、そして羽根つきや福笑いなど日本特有の遊びに関して、高校生は剣道について歴史や競技人口などを詳しく調べました。そして調べたことを英語でまとめ、顧問の先生と共に修正し、何度も発音の練習をして英語の音声を入れ、日本語の字幕をつける作業を行いました。その動画は玄関ホールにて全校生や来客に披露させていただきました。また文化祭では、日本の地域を分類し、各地域についてリサーチし、英語でポスターを作成し、参加型のQ&Aを付けた展示を行いました。

動向についてなど社会的なものまで多岐に渡りました。ESS部の部員たちはそれぞれの質問に英語でしっかり答え、好きなK-popやドラマ、徴兵制などについて質問をしました。最後は自由に交流し、お互いの学校の規則についてなども話し、大いに盛り上がりを見せました。



第77回大阪高等学校総合体育大会 ★★★★★★★★★★

優勝

高校1年・上田悠輔選手が8月に行われた「第77回大阪高等学校総合体育大会陸上競技の部」(以下:大阪総体)において、1年男子800m決勝で大会新となる1分56秒86のタイムで優勝し、9月16日(金)~18日



(日)開催「第55回近畿高等学校コース陸上競技対校選手権大会」(以下:近畿コース)に出場しました。上田選手は、公式戦のデビュー戦となる5月末開催・大阪インターハイにおいて、男子800m決勝で7位入賞を果たしましたが、近畿インターハイまではあと一歩届かずに悔しい経験をしました。その悔しさを晴らすべく、大阪総体に向けて着々と準備を進めてきました。

夏季練習期間には、兵庫県の神鍋高原での4泊5日の合宿に参加し、アップダウンのあるクロスカントリーコースで足腰を鍛え、基礎体力の増強を図ってきました。また、800mのレースを想定したスピードト

レーニングでも自身を追い込みながら黙々と取り組んできました。その成果が大阪総体での優勝となって実りました。

近畿コースでは、予選を通過し、決勝では、1分56秒47のタイムで3位入賞を果たしました。しかし、上田選手の中では、自身と1・2位の選手との力の差を痛感し、さらなる強化をしていかないと全国で通用しないと考えたようでした。秋冬のロードレースで走力を磨き、厳しい冬季練習の先に来年度こそ全国インターハイを目指すべく、練習に精進していく所存です。

応援の程、どうかよろしくお願いいたします。

